

高規格幹線道路網の早期整備を!

道路・港湾・空港 社会インフラ整備で機能強化を

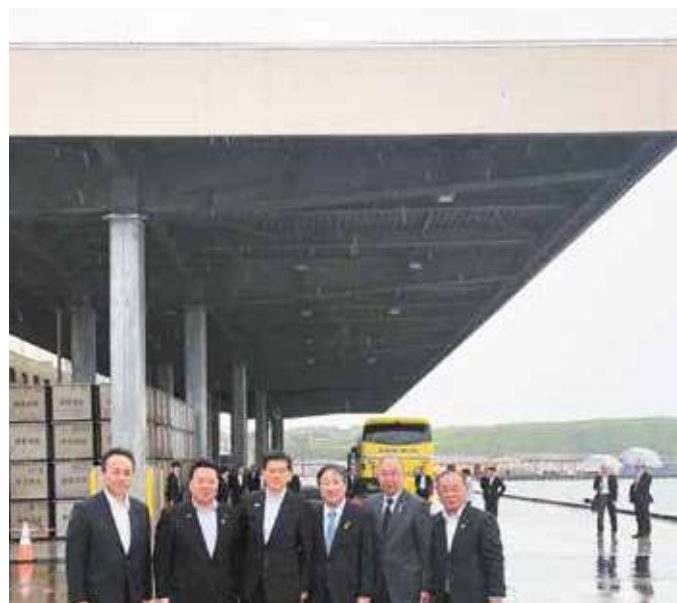
平成30年8月21日、石井国土交通大臣を厚岸町に迎え、地元で要望されている道東道「尾幌-糸井沢」間の現地を視察した。

9月28日の道議会一般質問にて、厚岸町の「尾幌-糸井沢」間の道東自動車道延伸や札幌アンビシャス道路の整備促進、本別ジャンクションのフル化など北海道における高規格幹線道路のさらなる整備を求めた。高橋はるみ知事は、今回の地震でも高規格道路が大きな役割を果たしている事を説明し、高規格幹線道路網の早期形成に向け「先頭に立って国や関係機関に働き掛ける」と述べた。北海道胆振東部地震で高規格幹線道路が命の道路として機能したことから1日も早い北海道のミッシングリンク解消が急がれる。



また農水省管轄の漁港にしか整備できなかった屋根付き岸壁を重要港湾でも整備できるよう佐藤英道衆議院議員と連携し、佐藤衆議院議員が国土交通省に訴え、国交省管轄の重要港湾でも整備できるようになり、根室花咲港に屋根付き岸壁整備が整備された。

8月22日に石井国土交通大臣、佐藤英道衆議院議員とともに花咲港を視察した。



道政に関するご意見・ご要望をお寄せください

田中ひでき事務所

〒085-0046 釧路市新橋大通8丁目2-19 ミヤシタビル 3F-B
TEL 0154-65-8063・FAX 0154-65-8064



田中ひでき オフィシャルwebサイト
制作/株新生



北海道議会議員

北海道議会議員 田中英樹 道政報告通信紙

Action
アクション report
レポート

田中ひでき



2018年
冬号

平成30年第3回 北海道議会定例会・一般質問

① 災害による酪農被害への対策について

(1) 酪農への影響について

(2) 停電対策について

(3) 粗飼料確保について

質問

私は先に釧路市、別海町、標茶町、厚岸町、中標津町など、釧路・根室管内の牧場の状況を調査してきましたところであります。これら道東地域は、全国の生乳生産の4割ものシェアを占めておりますが、その酪農現場においては、停電により搾乳ができなくなったため、発電機を貸し借りして、やっとの思いで1日1回の搾乳をした地域があった一方で、通信環境が悪く、情報も無く、連絡もとりにくい中で、発電機の融通ができず、丸2日間にわたり搾乳ができなかった牧場では、大腸菌性乳房炎で早々に2頭が死んだのに続き、牛がバタバタと倒れていく状況でした。道として、こうした被害を受けた酪農家の方々に寄り添った支援を行うべきと考えます。

答弁 [農政部長]

この度の地震災害では、道内の多くの酪農家において、停電により搾乳作業などができなかったことなどにより、大きな被害を受けたことから、道としては、酪農家の方々が安心して生産に取り組めるよう、まずは発電機などの非常用電源の整備を図るため、その支援対策を国に求めているとともに、こうした対策と併せて、JAなどと連携しながら災害に強い酪農の確立に取り組んでまいります。

② 建設問題について

(1) 高規格幹線道路の整備について

① ミッシングリンクの解消について

② 供用区間の機能強化について

(2) 国直轄ダムの基本計画変更に伴う道の負担増について

③ 労働問題について

④ 道庁OBを活用した災害ボランティアの確保について

⑤ 再生可能エネルギーの導入について

⑥ 湿原の保全と利用について

⑦ 冬季競技のナショナルトレーニングセンターの誘致について

⑧ 教育問題について

北海道胆振東部地震への対応

公明新聞

2018年(平成30年)9月25日(火曜日) 第18274号 日刊

酪農のまち 停電にうめく

北海道地震、被災地を追う



【写真】多くの乳牛が乳房炎にかかった大山牧場で、乳牛を優しくする大山さん(22日、北海道釧路管内)。同右、酪農家から被災状況を聞く佐藤氏(23日、北海道厚岸町)。

北海道釧路管内の牛舎では、乳牛の低いうなり声が響いていた。大山聡さん(36)は「停電で搾乳できず、80〜90頭が乳房炎になった。死にしたり、食用にした牛は17頭にもなる」と、ぐ

つと唇をかみ締めた。地震による2日間の長時間停電が大山牧場を襲った。規模が大きい牧場では、電気を失った乳牛の機嫌が欠かれない。デリケートな乳牛は搾乳ができないと

半を占めた釧路・根室管内の酪農家を訪れ、被災地の現状を追った。

搾乳できず乳房炎に「死亡牛を見て、廃業よぎった」

乳房炎を起してしまう。大山牧場では8時間おきに搾乳していた。それができない。打撃は大きかった。

「心配で、何度も牛舎に足を運んだ。その度に牛が搾乳してもらえなくて鳴くのがつらかった。バタバタと死んでいく牛を見て、廃業が頭をよぎった」と大山さん。停電の影響で管理不可能になるなど生乳の廃棄は、計38トで400万円相当に及んだ。生き延びた乳牛もストレスがたまり、乳量の回復には長期間を要する。被害額は計3、400万円に至るとい

う。一方、停電の間、自家発電装置を借りることができた酪農家は乳房炎の被害が少なかった。主に厚岸町をエリアとする釧路太田農業協同組合(河村信幸代表理事組合長)

は、自家発電装置の貸し出しを積極的に行い、エリア内の酪農家は辛うじて一日1回の搾乳を死守。牧場主の木原晃さん(60)は「乳房炎で4頭がダメになったが、自家発電を借りたおかげで最悪の事態を免れた」と胸をなで下ろした。

北海道農業共済組合連合会によると、地震発生後の9月6、12日に乳房炎と診断された乳牛は、組合が把握しているだけで1万143頭(速報値)に上る。乳房炎は、通常時でも発生しているが、今回は通常の2倍に及び、根室・釧路管内が半分以上を占める。

北海道庁は生乳約2万トンを廃棄し、被害額は21億円と発表。乳房炎による死亡など家畜の被害額については調査中だ。酪農は北海道の農業産出額の約4割を占め、「地域の雇用や経済を支える基幹産業」(北海道庁畜産振興課)であるだけに復旧支援が急がれる。

公明、被災状況を調査

酪農被害を調査するため、公明党の佐藤英道農林水産部会長(衆院議員)と23日中英樹道議(地元議員)は、釧路・根室管内の酪農家を訪問。生乳廃棄や死亡乳牛など損失への補償支援、自家発電装置設置の補助拡充など切実な要望が相次いだ。佐藤氏は「大きな被害を受けている酪農の継続支援が必要だ。復旧・復興へ全力を挙げ」と力を込めた。

2018年9月25日公明新聞

厚真町・安平町の被災地へ

2018年9月6日

震度7で甚大な被害のあった安平町・厚真町へ佐藤英道衆議、志賀谷道議、吉井道議とともに向かいました。避難所で被災された皆様へともに頑張りましょうと声をかけさせていただきました。



札幌市清田区里塚の被災地へ

2018年9月7日

佐藤英道衆議、阿知良道議、中野渡道議、吉井道議とともに、地震の影響による液状化現象が大きい清田区の現場へ。家が完全に傾き、道路は1.5メートルほど陥没している。住民は近くの小学校へ避難しています。本日に札幌市による家屋調査が行われるとのこと。札幌市内もコンビニなどには食料品もなく、ガソリンスタンドも長蛇の列。まずは電気、水道などのライフラインの復旧、食料品、ガソリンなどのエネルギー、確実に進めていかなければならない。オール北海道で1日も早い復旧を目指します。



酪農被害調査①

2018年9月8日

大規模停電で大きな被害を受けている酪農現場を中標津の江口町議とともに視察。釧路市山花、別海町、中標津町の酪農家の皆さま、農協関係者などから現状をお聞きしました。現場に入り、お話を伺うことで今後の課題についても明確になってきました。道東地域の基幹産業である酪農をしっかりと応援します!



釧路・別海・中標津

酪農被害調査②

2018年9月9日

昨日に続き、水石町議・江口町議とともに中標津町計根別養老牛、標茶町虹別の酪農家にお話を伺う。2日に渡る電源喪失は酪農にとって致命傷であり、繊細な牛はちょっとした環境変化で乳量も激減する。また乳房炎になることで今後のダメージも懸念される。やむなく生乳を廃棄せざるを得ないことも断腸の思いですが、牛さ元気でいてくれたら...との声。廃棄よりもむしろ搾乳できずに牛へダメージを与えることが重大な問題であることがわかりました。今回は全道規模の停電ということから、国の支援がなければ厳しい状況にあります。現場の声をしっかりと拾い、稲津衆議院議員とも連携を取りながら、国への支援を訴えてまいります。



中標津・標茶

北広島市大曲の住宅損壊を調査

2018年9月11日

地震による家屋被害は札幌市清田区に隣接する北広島市大曲でも深刻な被害。荒当道議、北広島市議の大迫市議、木村市議とともに調査し、住民の方からお話を伺う。崖側の家屋被害は甚大ですが、道路を挟んで向かい側の住宅も地盤沈下によって家が沈み傾いているとのこと。こういった住宅もしっかりと行政が調査しなければならない。



北広島

別海町酪農被害・観光地調査

2018年9月14日

沓澤別海町議と別海町の道東あさひ農協(全道最多の520戸)へ北海道胆振東部地震の停電に伴う酪農被害状況について話を伺いに行きました。廃棄生乳は1日1000トン=1億円に相当する。さらに発電機の備えなど今後の対策についてお聞きした。佐藤英道衆議院議員より農林水産省へ伝えてもらいました。北海道としても道東の基幹産業である酪農への支援を要請したい。その後、風評被害でキャンセルが発生している阿寒湖温泉へ。インバウンドも歩いている様子が見られた。アイヌコタンのお土産屋さんにも話を聞いたが、観光客は少しずつ戻りつつあるとのことだが、多くのキャンセルが発生した損害は大きい。



別海・阿寒湖温泉

北海道150年記念式典

2018年8月5日

8月5日北海きたえーるにおいて天皇皇后陛下が御臨席のもと厳粛に式典が開催されました。雄大な自然と安心安全な食文化など大きな可能性を秘めた北海道が、これからも発展していくために、北海道人の1人として働いてまいります。



札幌

阿寒サイクリングロード

2018年8月14日

釧路市昭和から阿寒町まで続くサイクリングロードを調査。



釧路

2018北方領土返還要求北海道・東北国民大会

2018年8月24日

道庁前から返還要求街頭行進を行い、国民大会に参加。戦後73年が経過したこの問題は必ず解決しなければなりません。道議会北方領土対策特別委員会の委員として、決意を新たにしました。



札幌

道東自動車道ワイヤーロープ・美唄市視察

2018年8月27日

道議会公明党議員団としてタ張インターに設置されているワイヤーロープを視察。関係団体から要望されていた暫定2車線区間における安全対策として実施されています。さらに美唄市において、ホワイトデータセンター等を視察。雪を活用し夏場の冷熱エネルギーとするなど、豪雪地帯である美唄市が厄介者である雪を逆転の発想で活用するという取組みを視察調査しました。



美唄

北方領土委員会視察

2018年8月28日

道議会の北方領土対策特別委員会にて隣接地域を視察。初日は、標津町と羅臼町。国後島がうっすらと見える羅臼町では、千島歯舞居住者連盟の元島民の方々と意見交換をしました。日共同経済活動の方向性や今後の返還運動に対する後継者育成や支援、領土教育など。共同経済活動も大きな前進が見えない中、領土問題全体を通じて、ある支部長からは「風穴をあけて欲しい」との切実なお声を聞き、新たな決意をしました。領土問題は国が外交交渉を行いますが、四島の行政管轄でもある北海道が、もっと頑張らないといけないと感じました。たとえ小さな穴でも、必ず風穴をあける結果を出していきます!

標津・羅臼